



クレデンシャルポリシーの管理

- [クレデンシャルポリシーと認証 \(1 ページ\)](#)
- [クレデンシャルポリシーの設定 \(2 ページ\)](#)
- [クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定 \(3 ページ\)](#)
- [認証アクティビティのモニタ \(3 ページ\)](#)
- [クレデンシャルキャッシングの設定 \(4 ページ\)](#)
- [セッション終了の管理 \(5 ページ\)](#)

クレデンシャルポリシーと認証

認証機能は、ユーザの認証、クレデンシャル情報の更新、ユーザイベントとエラーのトラッキングとロギング、クレデンシャル変更履歴の記録、データストレージ用のユーザクレデンシャルの暗号化または復号を行います。

システムは常に、アプリケーションユーザパスワードとエンドユーザ PIN を Unified Communications Manager データベースに照合します。エンドユーザパスワードについては、社内ディレクトリまたはデータベースに照合して認証できます。

システムが社内ディレクトリと同期されていれば、Unified Communications Manager または Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のいずれかの認証機能によってパスワードを認証できます。

- LDAP 認証が有効にされている場合、ユーザパスワードおよびクレデンシャルポリシーは適用されません。これらのデフォルトは、ディレクトリ同期 (DirSync サービス) で作成されたユーザに適用されます。
- LDAP 認証を無効にすると、システムはユーザクレデンシャルをデータベースに照合して認証します。このオプションを使用する場合、クレデンシャルポリシーを割り当て、認証イベントおよびパスワードを管理することができます。エンドユーザは、電話機のユーザインターフェイスでパスワードと PIN を変更できます。

クレデンシャルポリシーは、オペレーティングシステムのユーザまたは CLI のユーザには適用されません。オペレーティングシステムの管理者は、オペレーティングシステムでサポートされている標準のパスワード検証手順を使用します。

データベースにユーザが設定されると、システムはユーザクレデンシャルの履歴をデータベースに格納して、ユーザがクレデンシャルの変更を要求されたときに以前の情報を入力できないようにします。

クレデンシャルポリシーの JTAPI および TAPI のサポート

Cisco Unified Communications Manager Java テレフォニー アプリケーション プログラミング インターフェイス (JTAPI) およびテレフォニー アプリケーション プログラミング インターフェイス (TAPI) は、アプリケーションユーザに割り当てられたクレデンシャルポリシーをサポートするため、開発者はパスワードの有効期限、PIN の有効期限、およびクレデンシャルポリシーの適用のためのロックアウト戻りコードに応答するアプリケーションを作成する必要があります。

アプリケーションは、アプリケーションが使用する認証モデルに関係なく、API を使用してデータベースまたは社内ディレクトリで認証します。

開発者向けの JTAPI および TAPI の詳細については、開発者ガイド (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-programming-reference-guides-list.html>) を参照してください。

クレデンシャルポリシーの設定

クレデンシャルポリシーは、アプリケーションユーザとエンドユーザに適用されます。パスワードポリシーをエンドユーザとアプリケーションユーザに割り当て、PIN ポリシーをエンドユーザに割り当てます。[クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定 (Credential Policy Default Configuration)] に、これらのグループのポリシー割り当てが一覧表示されます。新しいユーザをデータベースに追加すると、システムがデフォルトポリシーを割り当てます。割り当てられたポリシーを変更したり、ユーザ認証イベントを管理したりできます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] を選択します。
 - ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のクレデンシャルポリシーを選択します。
 - [新規追加 (AddNew)] をクリックして、新しいクレデンシャルポリシーを作成します。
 - ステップ 3 [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定

インストール時に、Cisco Unified Communications Manager がスタティックデフォルトクレデンシャルポリシーをユーザグループに割り当てます。デフォルトクレデンシャルは提供しません。お使いのシステムが、新しいデフォルトポリシーを割り当てたり、ユーザの新しいデフォルトクレデンシャルとクレデンシャル要件を設定したりするためのオプションを提供します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] を選択します。
- ステップ 2** [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] ドロップダウンリストボックスから、このグループのクレデンシャルポリシーを選択します。
- ステップ 3** [クレデンシャルの変更 (Change Credential)] と [クレデンシャルの確認 (Confirm Credential)] の両方にパスワードを入力します。
- ステップ 4** このクレデンシャルをユーザに変更させない場合は、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** ユーザが次のログイン時に変更する必要がある、一時的なクレデンシャルを設定する場合は、[次回ログイン時に変更必要 (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにします。

(注) このボックスをオンにすると、ユーザはパーソナルディレクトリサービスを使用して PIN を変更できなくなることに注意してください。
- ステップ 6** クレデンシャルの期限を設定しない場合は、[有効期限なし (Does Not Expire)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

認証アクティビティのモニタ

システムは、最後のハッキング試行時刻や失敗したログイン試行のカウントなどの最新の認証結果を表示します。

システムは、次のクレデンシャルポリシーイベントに関するログファイルエントリを生成します。

- 認証成功
- 認証失敗 (不正なパスワードまたは不明)
- 次の原因による認証失敗

- 管理ロック
 - ハッキング ロック (失敗したログオン ロックアウト)
 - 期限切れソフト ロック (期限切れのクレデンシャル)
 - 非アクティブ ロック (一定期間使用されていないクレデンシャル)
 - ユーザによる変更が必要 (ユーザが変更するように設定されたクレデンシャル)
 - LDAP 非アクティブ (LDAP 認証へ切り替えたものの LDAP が非アクティブ)
- 成功したユーザ クレデンシャル更新
 - 失敗したユーザ クレデンシャル更新



(注) エンド ユーザ パスワードに対して LDAP 認証を使用する場合は、LDAP は認証の成功と失敗だけを追跡します。

すべてのイベント メッセージに、文字列「ims-auth」と認証を試みているユーザ ID が含まれています。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End Users)] を選択します。

ステップ 2 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、表示された一覧からユーザを選択します。

ステップ 3 [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] をクリックし、ユーザの認証アクティビティを表示します。

次のタスク

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) を使用してログ ファイルを表示できます。キャプチャされたイベントをレポートに収集することもできます。Unified RTMT の詳細な使用手順については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』

(<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) を参照してください。

クレデンシャル キャッシングの設定

クレデンシャルキャッシングを有効にすると、システム効率が向上します。システムは、ログイン要求ごとに、データベースルックアップを実行したり、ストアードプロシージャを呼び

出したりする必要がありません。キャッシュ期間が経過するまでは、関連付けられているクレデンシャルポリシーが適用されません。

この設定は、ユーザ認証を呼び出すすべての Java アプリケーションに適用されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

ステップ 2 必要に応じて、次のタスクを実行します。

- [キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [True] に設定します。このパラメータを有効にすると、Cisco Unified Communications Manager は、最大 2 分間、キャッシュされたクレデンシャルを使用します。
- システムがキャッシュされたクレデンシャルを認証に使用しないように、キャッシングを無効にするには、[キャッシングの有効化 (Enable Caching)] エンタープライズパラメータを [False] に設定します。LDAP 認証の場合、この設定は無視されます。クレデンシャルキャッシングでは、ユーザごとに最小量の追加メモリが必要です。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

セッション終了の管理

管理者は、各ノードに固有のユーザのアクティブなサインインセッションを終了するために、次の手順を使用できます。



- (注)
- 特権レベル 4 を持つ管理者のみが、セッションを終了できます。
 - セッション管理では、特定のノード上のアクティブなサインインセッションを終了します。管理者は、異なるノード間ですべてのユーザセッションを終了する場合には、各ノードにサインインしてセッションを終了する必要があります。

これは、次のインターフェイスに適用されます。

- Cisco Unified CM の管理
- Cisco Unified Serviceability
- Cisco Unified のレポート
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータル
- Cisco Unified CM IM and Presence の管理
- Cisco Unified IM and Presence Serviceability

- Cisco Unified IM and Presence のレポート

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified OS Administration または Cisco Unified IM and Presence OS Administration から、[セキュリティ (Security)] [セッション管理 (Session Management)] > を選択します。
[セッション管理 (Session Management)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** [ユーザ ID (User ID)] フィールドにアクティブなサインイン ユーザのユーザ ID を入力します。
 - ステップ 3** [セッションの終了 (Terminate Session)] をクリックします。
 - ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

終了したユーザは、サインインしたインターフェイスページを更新にすると、サインアウトします。監査ログにエントリが作成され、そこに終了した userID が表示されます。